

稲盛和夫関連先行研究一覧（1983～2024）

1. 経営史・企業家史・事例研究

【日本語文献】

- 石川昭・田中浩二（1999）『京都モデル』プレントイスホール出版。
- 梅崎修（2023）「企業の成長と人事制度の整備：京セラの60年を事例に」稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第2号、69-89頁。
- 奥田浩二（2021）「京都における起業家の輩出要因に関する一考察：起業家を支援する企業家の役割を中心に」『関西ベンチャー学会誌』第13号、45-55頁。
- 加護野忠男（1984）「日本のエクセレント企業②京セラ」『WILL』1984年12月号、100-107頁。
- 加護野忠男（1986）「京セラ：エネルギー・マネジメント」竹内弘高・榊原清則・加護野忠男・奥村昭博・野中郁次郎『企業の自己革新』中央公論社、225-253頁。
- 加護野忠男（1998）「ベンチャー経営者：稲盛和夫（京セラ）」伊丹敬之・加護野忠男・宮本又郎・米倉誠一郎編『ケースブック 日本企業の経営行動4 企業家の群像と時代の息吹き』有斐閣、357-383頁。
- 加護野忠男（2022）「日本企業の『全員経営』：『現場の企業家』研究に向けて」『企業家研究』第20号、1-10頁。
- 加護野忠男・野中郁次郎・榊原清則・奥村昭博（1983）『日米企業の経営比較』日本経済新聞社。
- 加藤靖慶（2010）「経営先進に学ぶ日本的経営（松下幸之助氏；稲盛和夫氏）」『日本的経営とリーダーシップ』税務経理協会、90-114頁。
- 加藤靖慶（2014）『松下幸之助と稲盛和夫に学ぶリーダーシップの本質』中央経済社。
- 橘川武郎（聞き手）（2003a）「現代産業史の証言（9）先陣を切って、新電電を旗揚げ 稲盛和夫・京セラ名誉会長：通信自由化（上）」『エコノミスト』81(60)、68-71頁。
- 橘川武郎（聞き手）（2003b）「現代産業史の証言（10）KDDI誕生 合併秘話を明かす 稲盛和夫・京セラ名誉会長：通信自由化（下）」『エコノミスト』81(61)、48-52頁。
- 橘川武郎（2011）「13人の企業家で綴る日本の経営の歩み」一橋大学イノベーション研究センター監修『一橋ビジネスレビュー別冊』第1号、24-31頁。
- 橘川武郎（2019）「稲盛和夫：ベンチャー経営者によるマネジメント革新」『イノベーションの歴史：日本の革新的企業家群像』有斐閣、206-216頁。
- 金容度（2022）「日本経営史からみた稲盛和夫・京セラ研究の意義と課題」稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第1号、73-92頁。
- 金容度（2024）「京セラトップマネジメントの属性及びキャリアパス分析：1960年代～90年代」稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第3号、17-43頁。
- 木山実（2020）「松風工業に関する試論：3代目松風嘉定の考察を中心に」アジアにおける近代大阪の発展研究班編『近代関西経済の発展とアジア（研究双書第170冊）』関西大学経済・政治研究所、1-20頁。

- 酒井絢美・佐久間隆大 (2016) 「京セラ株式会社」 徳賀芳弘編著『京都企業 歴史と空間の産物』中央経済社、47-68 頁。
- 沢井実 (2022) 「戦前・戦中・戦後における内野正夫の歩み」 稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第 1 号、1-18 頁。
- 沢井実 (2023) 「創業期京セラと外部人材: 杉浦正敏の役割」 稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第 2 号、1-20 頁。
- 沢井実 (2024) 「創業直後期京都セラミックの営業実態」 稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第 3 号、1-15 頁。
- 島本実 (1999) 「ナショナルプロジェクトの制度設計: サンシャイン計画と太陽光発電産業の生成」 一橋大学博士論文。
- 島本実 (2001) 「資源の集中による間隙: ファインセラミックス産業の行為システム記述」『組織科学』第 34 巻第 4 号、53-66 頁。
- 島本実 (2002) 「技術政策による焦点化と相互参照: ファインセラミックス産業の意図せざる展開」 米倉誠一郎編著『現代経営学講座 2: 企業の発展』八千代出版、175-201 頁。
- 島本実 (2005) 「京セラ: 経営資源の連鎖的動員」 米倉誠一郎編『ケースブック 日本のスタートアップ企業』有斐閣、99-120 頁。
- 島本実 (2014) 『計画の創発: サンシャイン計画と太陽光発電』有斐閣。
- 末松千尋 (2002) 「京様式企業ケーススタディ⑦: 京セラ」『京様式経営: モジュール化戦略』日本経済新聞社、184-190 頁。
- 須本隆雄 (2016) 「電子部品企業の創業者に関する一考察: 京都 4 社に見る企業家精神・理念の比較研究」『経営戦略研究』(関西学院大学) 第 10 号、59-74 頁。
- 高橋莞爾 (2016) 「企業者史の再論を試みる」『千葉大学人文社会科学研究』32 号、121-137 頁。
- 高橋莞爾 (2020) 「企業者史再論」『千葉大学人文公共学研究論集』第 40 巻、164-180 頁。
- 津村直也・松永拓也・榮哲史 (2011) 「京セラ株式会社」 徳賀芳弘監修『京都企業の分析』中央経済社、29-51 頁。
- 中島裕喜 (2023) 「京セラの電子部品事業史とその周辺: 1980 年代までの動向を中心に」 稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第 2 号、21-39 頁。
- 日本経済新聞社 (1999) 「哲学・原則が社員の資質を高める: 京セラのフィロソフィ経営」『京阪バレー: 日本を変革する新・優良企業たち』日本経済新聞社、85-110 頁。
- 野中郁次郎・勝見明 (2015) 「JAL 再生には『全員経営』のすべての要素が凝縮されている」『全員経営: 自律分散イノベーション企業 成功の本質』日本経済新聞出版社、51-88 頁。
- 野中郁次郎・竹内弘高 (2020) 『ワイズカンパニー: 知識創造から知識実践への新しいモデル』東洋経済新報社。
- 長谷川直哉 (2011) 「ベンチャー企業の躍進: 稲盛和夫 (京セラ)」 宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史: テーマとケースでとらえよう』有斐閣、276-291 頁。
- 濱田信夫 (2002) 「ハイテクベンチャーの企業家活動: 立石一真/稲盛和夫」 法政大学産業情報センター・宇田川勝編『ケース・スタディー 日本の企業家史』文真堂、325-339 頁。
- 林徹 (2011) 「組織の重心: 京都セラミックと松風工業の例を中心に」『経営と経済』(長崎大学)

- 第 91 巻第 3 号、1-22 頁。
- メイヨー, A. J.・江川雅子・山崎繭加 (2010)「日本の起業家 稲盛和夫」ハーバード・ビジネス・スクール『ケース・スタディ 日本企業事例集』ダイヤモンド社、315-361 頁。
- 森田利夫 (2005)「京セラ 1970 年代経営史：相乗効果経営と資本市場」『商経論集』(早稲田大学) 第 88 号、17-29 頁。
- 吉沢正弘 (2004)「日本製造企業の国際経営：京セラ在米現地法人の経営」『中京学院大学研究紀要』第 11 巻第 2 号、1-12 頁。
- 吉田裕之 (2005)「京都における革新的企業家出現の諸条件」安岡重明編著『近代日本の企業者と経営組織』同文館出版、143-161 頁。

【英語文献】

- Chemical Heritage Foundation (2010) *KAZUO INAMORI ORAL HISTORY*, Chemical Heritage Foundation.
- Jones, G. (2017) *Profits and Sustainability: A History of Green Entrepreneurship*, Oxford University Press.
- Jones, G., and L. Bouamane (2012) *Power from Sunshine: A Business History of Solar Energy*, Harvard Business School Working Paper (12-105).
- Kase, K., C. Cantón, and I. Nonaka (2014) *Phronesis and Quiddity in Management: A School of Knowledge Approach*, Palgrave Macmillan.
- Kikkawa, T. (2023) “Kazuo Inamori: Managerial Renewal by a Venture Manager”, *History of Innovative Entrepreneurs in Japan*, Springer, pp. 225-234.
- Nonaka, I. and H. Takeuchi (2019) *The Wise Company: How Companies Create Continuous Innovation*, Oxford University Press.
- Takeuchi, H. (2014) *The Miracle of Japan Airlines*, Harvard Business School case (N2-713-521).

2. アメーバ経営

【日本語文献】

- 青木康晴 (2024)『組織行動の会計学：マネジメントコントロールの理論と実践』日経 BP。
- 秋山盛 (2024)「100 年目を迎えた管理会計：わが国の産業成長に向けた役割、課題、展望」『常葉大学経営学部紀要』第 12 巻第 1 号、1-9 頁。
- 浅石梨沙・近藤大輔・黒木淳 (2024)「親子間事業継承に管理会計システムが及ぼす影響：アメーバ経営の導入企業を例として」『管理会計学』第 32 巻第 1 号、185-200 頁。
- 浅田拓史・上總康行 (2020a)「コントロール・システムの停滞を克服する：マルチ水谷のアメーバ経営の進化」『原価計算研究』第 44 巻第 1 号、88-101 頁。
- 浅田拓史・上總康行 (2020b)「マルチ水谷におけるアメーバ経営の進化と使いこなしの条件」『会計』第 198 巻第 1 号、95-109 頁。
- アメーバ経営学術研究会編 (2010)『アメーバ経営学』KCCS マネジメントコンサルティング。
- アメーバ経営学術研究会編 (2017)『アメーバ経営の進化』中央経済社。
- 石井宏宗 (2024)「管理会計的技法からみる我が国中小企業文化の一考察：ダム経営、トヨタ

- 生産方式、アメーバ経営の検証から」『商工金融』第74巻第4号、55-67頁。
- 伊丹敬之・青木康晴 (2016) 「アメーバ経営と時間当たり採算」『現場が動き出す会計』日本経済新聞出版社、188-217頁。
- 鵜飼裕志 (2009) 「京セラにおけるアメーバ経営の原点回帰活動に関する一考察：時間当たり採算に焦点を当てて」『慶應商学論集』第23巻第1号、31-50頁。
- 潮清孝 (2006) 「実地調査からみた京セラのアメーバ経営：京セラフィロソフィの役割を中心に」上總康行・澤邊紀生編著『次世代管理会計の構想』中央経済社、193-216頁。
- 潮清孝 (2008) 「京セラ・アメーバ経営の時間当たり採算公式と利益連鎖管理」『企業会計』第60巻第3号、471-479頁。
- 潮清孝 (2010) 「京セラ・アメーバ経営における時間当たり採算の歴史的形成過程についての研究：時間当たり採算の『年輪』を読む」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営学』KCCS マネジメントコンサルティング、115-141頁。
- 潮清孝 (2012) 「京セラ・アメーバ経営と管理会計：管理会計研究におけるアメーバ経営の意義とその体系的理解」京都大学博士論文。
- 潮清孝 (2013) 『アメーバ経営の管理会計システム』中央経済社。
- 潮清孝 (2015) 「アメーバ経営研究の体系的理解と今後の方向性」上總康行・澤邊紀生編著『次世代管理会計の礎石』中央経済社、201-215頁。
- 潮清孝 (2016) 「アメーバ経営の多様性と採算表比較：カズマにおける進化経営を事例として」上總康行・長坂悦敬編著『ものづくり企業の管理会計』中央経済社、69-88頁。
- 潮清孝・桐畑哲也 (2013) 「アメーバ経営の導入による事業再生：被導入企業における受容プロセスを中心に」『メルコ管理会計研究』第6号-I/II、51-62頁。
- 大串哲史 (2023) 「会計数値が支える経営理念」『企業会計』第75巻第2号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、51-56頁。
- 庵谷治男 (2014) 「ホテル日航プリンセス京都におけるアメーバ経営の導入と実践」『企業会計』第66巻第12号、1870-1876頁。
- 庵谷治男 (2017) 「アメーバ経営導入にみる管理会計システムの多様性：事業特性差異に基づく探索的事例研究」早稲田大学博士論文。
- 庵谷治男 (2018a) 『事例研究 アメーバ経営と管理会計』中央経済社。
- 庵谷治男 (2018b) 「『時間当たり採算』にみるバリエーションとその作用因：アメーバ経営導入研究のレビューに基づく探究」『原価計算研究』第42巻第1号、45-57頁。
- 庵谷治男 (2020) 「アメーバ経営の高次学習が組織を改革する」『企業会計』第72巻第7号、30-37頁。
- 庵谷治男 (2022a) 「アメーバ経営における管理会計システムの拡張性」『会計』第201巻第1号、64-78頁。
- 庵谷治男 (2022b) 「アメーバ経営：いかなる導入効果をもたらすのか」加登豊・吉田栄介・新井康平編著『実務に活かす管理会計のエビデンス』中央経済社、66-76頁。
- 庵谷治男 (2023) 「非製造業へのアメーバ経営に魅せられて」『企業会計』第75巻第2号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、43-46頁。

-
- 庵谷治男・近藤大輔（2024）「アメーバ経営導入組織におけるフィロソフィの活用：小型補聴器専門店 X 社における事例」『経営会計レビュー』第 4 巻第 1 号、1-14 頁。
- 尾畑裕（2010）「アメーバ経営と原価計算」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営学』KCCS マネジメントコンサルティング、142-158 頁。
- 尾畑裕（2017）「アメーバ経営と原価・収益計算構造」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化』中央経済社、141-152 頁。
- 上總康行（2007）「京セラの大家族主義経営と管理会計：アメーバ経営と時間当たり採算」『管理会計学』第 15 巻第 2 号、3-17 頁。
- 上總康行（2008）「GM と京セラの管理会計比較研究」『立教経済学研究』第 61 巻第 4 号、1-25 頁。
- 上總康行（2010）「アメーバ経営の仕組みと全体最適化の研究」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営学』KCCS マネジメントコンサルティング、58-88 頁。
- 上總康行（2014a）「日本的経営と機会損失の管理：アメーバ経営とトヨタ生産方式の同質性」『企業会計』第 66 巻第 2 号、198-210 頁。
- 上總康行（2014b）「京セラのアメーバ経営：日本を代表する経営管理方式の仕組み」『ふくい地域経済研究』第 19 号、49-60 頁。
- 上總康行（2017a）「アメーバ経営の利益連鎖管理とトヨタ生産システム：日本的経営にみられる機会損失管理の典型」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化』中央経済社、121-140 頁。
- 上總康行（2017b）『管理会計論（第 2 版）』新世社。
- 上總康行（2021）「アメーバ経営の『停滞』を克服する TPS の導入」『経営会計レビュー』第 2 巻第 1 号、15-32 頁。
- 上總康行（2023）「アメーバ経営と利益連鎖管理」『企業会計』第 75 巻第 2 号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、24-27 頁。
- 上總康行・澤邊紀生（2005）「京セラのアメーバ経営と利益連鎖管理（PCM）」『企業会計』第 57 巻第 7 号、97-105 頁。
- 上總康行・澤邊紀生（2006）「京セラのアメーバ経営と管理会計システム」上總康行・澤邊紀生編著『次世代管理会計の構想』中央経済社、165-191 頁。
- 川島和浩（2010）「管理会計システムの進展に関する考察：京セラのアメーバ経営に関連して」『苫小牧駒澤大学紀要』第 22 号、1-22 頁。
- 神田嘉延（2009a）「産業民主主義とアメーバ経営：人間力経営の一考察」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第 1 号、89-124 頁。
- 北居明・鈴木竜太（2010）「マネジメントシステムとしてのアメーバ経営：R・リカートによるシステム 4 との比較を通じて」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営学』KCCS マネジメントコンサルティング、159-183 頁。
- 北居明・鈴木竜太・小野康裕（2017）「アメーバ経営の学校組織への導入」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化』中央経済社、101-120 頁。
- 窪田祐一・三矢裕・谷武幸（2017）「アメーバ経営は企業に成果をもたらすのか：導入企業 97

- 社へのアンケートに基づく実態調査」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化』中央経済社、233-261頁。
- 黄嘉欣 (2021) 「中国におけるアメーバ経営の導入」『経営学研究論集』(明治大学大学院) 第55号、43-60頁。
- 近藤大輔 (2015a) 「組織文化を変革するマネジメント・コントロール・システム：日本航空株式会社に導入されたアメーバ経営の考察」一橋大学博士論文。
- 近藤大輔 (2015b) 「精度向上を目指す予算管理：日本航空株式会社の経営改革からの考察」廣本敏郎・挽文子編著『日本の管理会計研究』中央経済社、113-131頁。
- 近藤大輔 (2017) 「アメーバ経営導入の阻害要因：インフラテックからの教訓」『メルコ管理会計研究』第9号-II、45-55頁。
- 近藤大輔・浅石梨沙・黒木淳 (2022) 「事業承継と管理会計：六甲バター株式会社の後継者を育成したアメーバ経営」『管理会計学』第30巻第1号、73-88頁。
- 近藤大輔・浅石梨沙・黒木淳 (2024) 「事業承継時のアメーバ経営を支援する場：カネテツペリカフーズにおける幹部会議の役割」『立正経営論集』第56巻第2号、79-94頁。
- 近藤大輔・三矢裕 (2017) 「サービスの品質を高めるアメーバ経営：日本航空株式会社の客室サービスを変えた JAL フィロソフィ」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化』中央経済社、19-40頁。
- 今野喜文 (2003) 「組織能力とイノベーション：『アメーバ組織』の検討から」『北星学園大学経済学部北星論集』第42巻第2号、25-42頁。
- 阪口博政 (2024) 「アメーバ経営におけるフィロソフィの共有・浸透：医療・介護専門職を対象としたフィールドリサーチから」『産業経理』第84巻第1号、69-78頁。
- 澤邊紀生 (2010) 「賢慮を生み出すアメーバ経営：経営理念を体現した管理会計の仕組み」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営学』KCCS マネジメントコンサルティング、89-114頁。
- 澤邊紀生 (2023) 「アメーバ経営研究から着想を得た臨床会計学」『企業会計』第75巻第2号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、32-36頁。
- 澤邊紀生・庵谷治男 (2017) 「部門別採算制度が経営理念の発現に及ぼす影響：ホテルにおけるアメーバ経営の事例」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化』中央経済社、61-100頁。
- 清水孝 (2014) 「解題深書 アメーバ経営」『企業会計』第66巻第8号、1220-1223頁。
- 鈴木寛之 (2009) 「全員参加経営型経営システムの研究：京セラ経営システムの生成過程」『一橋商学論叢』第4巻第2号、22-36頁。
- 鈴木寛之 (2010) 「自律的組織の企業内協働にみる利益帰属システムの理論的原則」『一橋商学論叢』第5巻第2号、38-52頁。
- 鈴木寛之 (2011a) 「利益帰属システムの理論的原則に関する考察：京セラアメーバ経営の事例から」『企業会計』第63巻第5号、777-785頁。
- 鈴木寛之 (2011b) 「自律的組織の企業グループ内組織間協働にみる利益帰属の微調整：鹿児島エレクトロニクスの事例から」『原価計算研究』第35巻第1号、84-95頁。
- 鈴木寛之 (2017) 「京セラ・アメーバ経営と経営環境の変化：責任会計論と管理者行動の観点

-
- から」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化』中央経済社、211-232 頁。
- 高橋勅徳・小江茂徳（2015）「ベンチャー企業におけるアメーバ経営の導入：株式会社ベアーズにおけるアメーバ経営導入事例の組織文化論に基づく考察」『日本ベンチャー学会誌』第 26 巻、27-41 頁。
- 谷武幸（1997）「エンパワメントの管理会計：ミニ・プロフィットセンター」『Business Insight』No. 20、28-35 頁。
- 谷武幸（1999）「ミニプロフィットセンターによるエンパワメント：アメーバ経営の場合」『国民経済雑誌』第 180 巻第 5 号、47-59 頁。
- 谷武幸（2000）「マイクロ・プロフィットセンターによるエンパワメント」『JICPA ジャーナル』第 12 巻第 6 号、80-85 頁。
- 谷武幸（2005）「京セラアメーバ経営：自律的組織とその統合の視点から」『企業会計』第 57 巻第 12 号、1707-1714 頁。
- 谷武幸（2013）「アメーバ経営の概念モデル：フィロソフィとのコントロールパッケージによる組織の活性化」『企業会計』第 65 巻第 2 号、161-171 頁。
- 谷武幸（2023）「アメーバ経営との出会いと学び：組織の活性化と変革に向けて」『企業会計』第 75 巻第 2 号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、20-23 頁。
- 谷武幸・窪田祐一（2010）「アメーバ経営導入による被買収企業の組織変革：チェンジ・エージェントの役割」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営学』KCCS マネジメントコンサルティング、211-252 頁。
- 谷武幸・窪田祐一（2012a）「被買収企業の組織変革におけるチェンジ・エージェントの役割：アメーバ経営導入と経営フィロソフィの浸透」『経済研究』（大阪府立大学）第 57 巻第 4 号、35-47 頁。
- 谷武幸・窪田祐一（2012b）「管理会計システムの導入による組織統合と戦略実施：京セラミタにおけるアメーバ経営導入のケース」『原価計算研究』第 36 巻第 1 号、107-118 頁。
- 谷武幸・窪田祐一（2017）『アメーバ経営が組織の結束力を高める』中央経済社。
- 田村繁和（2023）「稲盛氏の素朴な疑問から生まれた京セラの経営システム」『企業会計』第 75 巻第 2 号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、57-61 頁。
- 陳国慶（2013）「日中合弁企業の賃金システムの研究：金型企業のアメーバシステム導入事例を通して」『経営行動科学』第 26 巻第 2 号、149-161 頁。
- 竇少杰（2018）「日本の経営手法の中国企業での実施可能性と課題：京セラのアメーバ経営の導入をめぐる」『立命館経営学』第 56 巻第 5 号、279-297 頁。
- 浜田和樹（1989）『「アメーバ」方式による利益管理システム：京セラのケース』『企業会計』第 41 巻第 2 号、262-268 頁。
- 早川翔（2017）「アメーバ経営の内発的動機付けへの影響：M 社の非正規雇用社員を対象としたケーススタディ」『原価計算研究』第 41 巻第 2 号、38-47 頁。
- 挽文子（2007）「京セラ株式会社のケースリサーチ」『管理会計の進化：日本企業にみる進化の

- 過程』森山書店、161-307頁。
- 挽文子（2014）「病院の変革とアメーバ経営」『会計』第185巻第4号、472-485頁。
- 挽文子（2017）「医療組織へのアメーバ経営の導入」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化』中央経済社、41-59頁。
- 挽文子（2023）「フィロソフィに基づく経営実践の普遍性」『企業会計』第75巻第2号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、37-42頁。
- 廣本敏郎（2006）「京セラのアメーバ経営：その意義と形成過程」『経済論叢』（京都大学）第178巻第4号、357-384頁。
- 廣本敏郎（2020）「もう一つの研究課題：金融庁での9年間の経験を踏まえて」『原価計算研究』第44巻第1号、1-14頁。
- 廣本敏郎（2023a）「稲盛経営学としてのアメーバ経営」『企業会計』第75巻第2号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、28-31頁。
- 廣本敏郎（2023b）『稲盛和夫が創り上げたアメーバ経営の原点』中央経済社。
- 廣本敏郎・挽文子（2010）「アメーバ経営研究序説」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営学』KCCS マネジメントコンサルティング、25-57頁。
- 藤井敏輝（1997）「アメーバ経営によるリーダー（組織）の活性化」『Business Insight』No. 20、18-27頁。
- 藤井敏輝（2012）「アメーバ経営と連結管理会計」『メルコ管理会計研究』第5号-II、3-8頁。
- 古田隆紀（2024）『マネジメント・コントロール・システムとアメーバ経営』森山書店。
- 卜志強（2009）「市場連鎖管理とアメーバ経営との比較：中国進出日系企業への示唆」『企業会計』第61巻第6号、811-817頁。
- 卜志強（2016）「中国企業におけるアメーバ経営の展開：宝鋼金属の事例を中心に」『経営研究』（大阪市立大学）第66巻4号、197-206頁。
- 堀井悟志（2020）「アメーバ経営における管理会計プロセスの役割ストレスに対する調整効果」『立命館経営学』第59巻1号、37-57頁。
- 堀井悟志（2024）「アメーバ経営の構築プロセスを通じた管理会計能力の形成」『メルコ管理会計研究』第15号-I、25-38頁。
- 松井達朗（2009）「アメーバ経営導入の促進・阻害要因」『Business insight workshop』（1）、4-9頁。
- 松井達朗（2017）「協力対価方式の発案：医療・介護業界、日本航空への導入」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化』中央経済社、287-307頁。
- 丸田起大（2010）「京セラ・アメーバ経営の責任会計の一考察：計算構造論、社会心理学、文化人類学の視点から」『メルコ管理会計研究』第3号、27-37頁。
- 丸田起大（2013）「アメーバ経営における中国人従業員の採算意識への報酬制度の影響：（株）カズマでの質問票調査から」『経済学研究』（九州大学）第80巻第4号、97-107頁。
- 丸田起大（2014）「アメーバ経営の導入効果の検証：（株）カズマにおける従業員意識と財務業績の向上」『経済学研究』（九州大学）第81巻第1号、1-20頁。
- 丸田起大（2016）「アメーバ経営の導入効果の検証：予定難易度向上と速度連鎖効果」上總康行・長坂悦敬編著『ものづくり企業の管理会計』中央経済社、89-101頁。

- 丸田起大・市原勇一・澤邊紀生（2018）「不動産会社のアメーバ経営：サンフロンティア不動産の事例」『メルコ管理会計研究』第10号-I、95-106頁。
- 丸田起大・潮清孝・上總康行（2017）「アメーバ経営の導入プロセスと導入効果：株式会社カズマの事例」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化』中央経済社、153-183頁。
- 三浦后美（2013）「日本航空（JAL）とアメーバ経営」『社会科学論集』（埼玉大学）第139号、59-73頁。
- 水島多美也（2014）「アメーバ経営における時間当り採算での時間の意味」『流通科学研究』（中村学園大学）第13巻第2号、39-57頁。
- 水島多美也（2015）『時間管理会計論：体系的整理への試み』同文館出版。
- 水野一郎（2008）「付加価値管理会計の展開：京セラアメーバ経営を中心として」『会計』第173巻第2号、248-258頁。
- 水野一郎（2012）「京セラアメーバ経営の展開：JALの再生を中心として」『関西大学商学論集』第57巻第3号、129-146頁。
- 三矢裕（1997a）「任せる経営のためのマネジメント・コントロール：京セラ・アメーバ経営」『学習院大学経済論集』第34巻第3、4号合併号、135-148頁。
- 三矢裕（1997b）「任せる経営のメカニズム：事例研究：京セラ・アメーバ経営」『Business Insight』No. 20、64-77頁。
- 三矢裕（2000）「Robin Cooperのアメーバ経営研究に関する考察」『学習院大学経済経営研究年報』第14巻、65-74頁。
- 三矢裕（2001）「ミニ・プロフィットセンターの実証研究：アメーバ経営のメカニズムと導入プロセス・導入効果」神戸大学大学院経営学研究科博士論文。
- 三矢裕（2003a）『アメーバ経営論：ミニ・プロフィットセンターのメカニズムと導入』東洋経済新報社。
- 三矢裕（2003b）「ミニ・プロフィットセンター研究のレビュー：課題と展望」『会計』第16巻第2号、252-266頁。
- 三矢裕（2004a）「サーベイリサーチの実例2 広島アルミニウム工業におけるアメーバ経営の導入」谷武幸編著『成功する管理会計システム：その導入と進化』中央経済社、177-180頁。
- 三矢裕（2004b）「京セラのアメーバ経営によるエンパワメントとコントロール」『企業会計』第56巻第5号、689-695頁。
- 三矢裕（2005）「京セラアメーバ経営におけるエンパワメントとコントロール」櫻井通晴編著『企業再編と分権化の管理会計：企業価値を高める再生の手法』中央経済社、174-184頁。
- 三矢裕（2010）「アメーバ経営の導入：アクテックの事例」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営学』KCCS マネジメントコンサルティング、184-210頁。
- 三矢裕（2012）「ミニ・プロフィットセンターによるエンパワメント」廣本敏郎・加登豊・岡野浩責任編集『日本企業の管理会計システム』中央経済社、198-214頁。
- 三矢裕（2023）「われわれが引継ぎ、次世代に伝えていくべきこと」『企業会計』第75巻第2号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、10-14頁。
- 三矢裕・鈴木貴之・加登豊（2022）「アクテック株式会社におけるアメーバ経営の導入」『原価

- 計算研究』第46巻第2号、15-26頁。
- 三矢裕・谷武幸・加護野忠男 (1999) 『アメーバ経営が会社を変える：やる気を引き出す小集団部門別採算制度』ダイヤモンド社。
- 三矢裕・安嶋新・近藤大輔 (2017) 「管理会計が人材育成に与える影響：日本エアコンピューター株式会社における部門別採算制度の事例研究」『原価計算研究』第41巻第1号、1-12頁。
- 村田忠嗣 (2023) 「会計は1つじゃない！ 稲盛氏による経営者のための会計」『企業会計』第75巻第2号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、62-66頁。
- 村山誠 (2013) 「アメーバ経営における局所最適化防止方策と部門別採算制度」『商学研究論集』(明治大学) 第39号、241-261頁。
- 日時壮浩・晴椋博亮 (2021) 「管理会計マインドの浸透が管理会計の効果的利用に与える影響」『経営会計レビュー』第2巻第1号、58-78頁。
- 山田周二 (2013) 「稲盛和夫の経営に関する一考察」『経営管理研究』第3号、61-63頁。
- 吉川晃史・吉本政和 (2020) 「リーン生産方式の導入によるアメーバ経営の課題克服：株式会社ヒライの事例」『原価計算研究』第44巻第2号、37-50頁。
- 李燕 (2015) 「組織学習を促進するマネジメント・コントロール・システム：京セラの利益連鎖管理における組織学習の促進」上總康行・澤邊紀生編著『次世代管理会計の礎石』中央経済社、161-175頁。
- 劉建英 (2008) 「日本的経営の国際移転に関する研究：中国へのアメーバ経営方式導入プロセスのアクション・リサーチ」神戸大学博士論文。
- 劉建英・三矢裕・加護野忠雄 (2006) 「細部へのこだわりと人材育成：中国へのアメーバ経営導入プロセスのアクションリサーチから」『国民経済雑誌』第194巻第1号、81-94頁。
- 劉美玲 (2017) 「アメーバ経営に関する実証研究：中国企業のデータによる分析」神戸大学博士論文。
- 劉美玲 (2018a) 「業績連動報酬がアメーバ経営に与える影響：中国企業のデータによる分析」『原価計算研究』第42巻第2号、52-66頁。
- 劉美玲 (2018b) 「マネジメント・コントロール・パッケージとしてのアメーバ経営」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第8号、51-70頁。
- 劉美玲 (2020) 「アメーバ経営の導入・実践における困難性に関するレビュー」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第9号、17-47頁。
- 劉美玲 (2021) 「アメーバ経営における目標設定について」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第10号、85-101頁。
- 劉美玲 (2022) 「アメーバ経営による環境適応について」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第11号、49-77頁。
- 劉美玲 (2023a) 「アメーバ経営と報酬制度の関係」『企業会計』第75巻第2号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、47-50頁。
- 劉美玲 (2023b) 「アメーバ経営における両利き経営の実施可能性：組織デザインの観点からの考察」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第12号、33-53頁。

- 劉美玲 (2024) 「アメーバ経営と経営者育成について」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第 13 号、29–53 頁。
- 劉美玲・早川翔・三矢裕・朝比奈洋介 (2024) 「賞与と業績の関係に対する認知がアメーバ経営の効果に与える影響」『原価計算研究』第 48 巻第 2 号、52–65 頁。
- 渡辺岳夫 (2012) 「アメーバ経営導入時における採算表フォーマットの形成プロセス：電子機器メーカー A 社のケース研究」『原価計算研究』第 36 巻第 1 号、119–131 頁。
- 渡辺岳夫 (2013a) 「ミニ・プロフィットセンター・システムが自己効力感と内発的動機づけに及ぼす影響」『商学論纂』(中央大学) 第 54 巻第 6 号、531–562 頁。
- 渡辺岳夫 (2013b) 「時間当たり採算性に関する会計処理の探求：電気機器メーカー A 社における労務費と時間の処理方法を中心として」『会計』第 183 巻第 6 号、730–744 頁。
- 渡辺岳夫 (2013c) 「アメーバ経営システムにおける会計処理の構造の探求：電気機器メーカー A 社の部門収益の計上方法を中心として」『会計プロGRESS』第 14 号、54–67 頁。
- 渡辺岳夫 (2014a) 「アメーバ経営システムにおける社内売買単価の設定方法とその効果：電気機器メーカー A 社のアメーバ経営システムのケーススタディ」『商学論纂』(中央大学) 第 55 巻第 4 号、707–735 頁。
- 渡辺岳夫 (2014b) 「アメーバ経営システムの影響機能と経営理念：西精工 (株) の利益・収益配分システムに関するケーススタディ」『会計』第 186 巻第 4 号、418–432 頁。
- 渡辺岳夫 (2016) 「アメーバ経営システムにおけるプロフィットセンター化の方法の探求：西精工 (株) の収益計上方法に関するケーススタディ」『産業経理』第 75 巻第 4 号、35–47 頁。
- 渡辺岳夫 (2017) 「会計情報と集約的効力感：アメーバ経営システムの効果に関する実証的研究」『原価計算研究』第 41 巻第 1 号、13–25 頁。
- 渡辺岳夫 (2018) 「なぜアメーバ経営システムの導入は失敗するのか？：自律性支援、経営理念、働きがい、および信頼の影響に関する探索的研究」『企業研究』第 33 号、3–21 頁。
- 渡辺岳夫 (2019) 「アメーバ経営システムの運用の継続企業と中止企業の比較：組織成員に対する心理的な影響メカニズムの多母集団同時分析」『管理会計学』第 27 巻第 1 号、35–55 頁。
- 渡辺岳夫 (2022) 「アメーバ経営システムがプレゼンティズムに及ぼす影響に関する実証的研究」『企業研究』第 40 号、1–20 頁。

【英語文献】

- Adler, R. W. and T. Hiromoto (2010) “Amoeba Management: Why it Works at Kyocera and Which other Firms Could Benefit from its Adoption – Part 1”, *Working Paper*, pp. 1–30.
- Adler, R. W. and T. Hiromoto (2012) “Amoeba Management: Lessons from Japan’s Kyocera”, *MIT Sloan Management Review*, fall, pp. 83–89.
- Adler, R. W. and T. Hiromoto (2015) “Amoeba Management: Lessons from Kyocera on How to Promote Organization Growth, Profitability, Integration, and Coordinated Action”, 廣本敏郎・挽文子編著『日本の管理会計研究』中央経済社, pp. 318–327.
- Cooper, R. (1994) *Kyocera Corporation: The Amoeba Management System*, Harvard Business School case (9-195-064).

- Cooper, R. (1995) *When Lean Enterprises Collide: Competing through Confrontation*, Harvard Business School Press.
- Hamada, K. and Y. Monden (1989) “Profit Management at Kyocera Corporation: The Amoeba System”, Monden, Y. and M. Sakurai (ed.), *Japanese Management Accounting: A World Class Approach to Profit Management*, Productivity Press.
- Kotter, J. P. and N. Rothboard (1991) *Kyocera Corporation*, Harvard Business School case (9-491-078).
- Miya, H. (1998) “Micro-profit Center System for Empowerment: A Case Study of the Amoeba System at the Kyocera Corporation”, *Gakushuin Economic Papers*, Vol. 35, No. 2, pp. 105–115.
- Miya, H. and T. Tani (1999) “Empowerment through Micro-profit Center System: An Empirical Study”, 『学習院大学経済経営研究所年報』第13巻, pp. 71–83.
- Sawabe, N. and S. Ushio (2009) “Studying the Dialectics between and within Management Credo and Management Accounting”, *The Kyoto Economic Review*, Vol. 78, No. 2, pp. 127–156.
- Suzuki, H. (2015) “Responsibility Accounting in Constant and Incremental Changes: A case Study on Kyocera’s Amoeba Management”, 廣本敏郎・挽文子編著『日本の管理会計研究』中央経済社, pp. 301–317.
- Suzuki, H., R. Adler, and T. Hiromoto (2019) “Amoeba Management and Organizational Ambidexterity: Similarities, Differences, and Implications for Organizational Fit and Success”, *International Journal of Productivity and Performance Management*, 69(2), pp. 405–427.
- Takeda, H. and T. Boyns (2014) “Management, Accounting and Philosophy: The Development of Management Accounting at Kyocera, 1959–2013”, *Accounting, Auditing and Accountability Journal*, Vol. 27, No. 2, pp. 317–356.

3. 経営哲学・企業倫理

【日本語文献】

- 青山敦 (2011) 『京セラ稲盛和夫 心の経営システム』日刊工業新聞社。
- 青山敦 (2021) 「『京セラ経営』にみるリーダーシップ：『京セラ稲盛和夫 心の経営システム』での研究をベースとして」『衆知』2021年4・5月号、48–53頁。
- 石谷康人・松村一弘 (2016) 「経営理念の浸透の循環プロセスモデル」『高知工科大学紀要』13巻1号、115–125頁。
- 伊丹敬之 (2024) 『経営理念が現場の心に火をつける』日経BP。
- 伊藤幸男 (2010) 『稲盛経営哲学の拓く地平』静岡学術出版。
- 伊藤幸男 (2011) 「稲盛経営哲学における美意識の問題」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第3号、333–343頁。
- 伊藤幸男 (2013) 「JALを再建した稲盛和夫氏の経営哲学：その深層を考える」『経済経営論集』（名古屋経済大学）20巻、1–18頁。
- 今井祐 (2015) 「日本航空（JAL）の再建に見る『経営者 稲盛和夫の経営哲学』」『日本経営倫理学会誌』第22号、263–272頁。
- 王英燕 (2023) 「理念型経営の探索：源泉・構造と測定指標」『経営哲学』第19巻第2号、

- 2-17 頁。
- 大平浩二・村山元英・厚東偉介（2005）「稲盛和夫氏と経営哲学を語る」『経営哲学』第2巻、14-20 頁。
- 奥健一郎（2010）「稲盛哲学の発展と可能性」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第2号、81-104 頁。
- 奥健一郎（2012a）「心の経営」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第3号、119-132 頁。
- 奥健一郎（2012b）「稲盛経営の核心」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第4号、83-97 頁。
- 小椋俊秀（2016）「中国における稲盛和夫経営哲学の普及に関する考察：儒教の影響に着目して」『経営哲学』第13巻第1号、128-131 頁。
- 川上恒雄（2009）「企業経営と宗教的信念：稲盛和夫の『哲学』」『宗教研究』第82号、476-477 頁。
- 川上恒雄（2010）「松下幸之助と稲盛和夫：その『哲学』の比較」『論叢 松下幸之助』第14号、15-37 頁。
- 北居明（2022）「社内報に見る稲盛経営哲学：『敬天愛人』の内容分析を通じて」稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第1号、93-110 頁。
- 木谷重幸（2012a）「稲盛和夫の経営哲学」経営哲学学会編『経営哲学の授業』PHP 研究所、32-40 頁。
- 木谷重幸（2012b）「稲盛和夫の経済思想と現代的意義」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第3号、299-332 頁。
- 東雲陽美・青山敦・前田亮（2021）「経営哲学に関するテキストにおける検索結果の多様性を考慮した検索システム」『じんもんこん 2021 論文集』、24-29 頁。
- 徐方啓（2019）「稲盛和夫経営哲学に関する一考察」『商経学叢』（近畿大学）第66巻第1号、129-142 頁。
- 瀬野泉（2005）「経営倫理実践のための対話に関する一考察」『日本経営倫理学会誌』第12巻、159-165 頁。
- 高巖・藤原達也・藤野真也・大塚祐一（2019）『日本航空の破綻と再生』ミネルヴァ書房。
- 高尾義明・王英燕（2012）『経営理念の浸透：アイデンティティ・プロセスからの実証分析』有斐閣。
- 田中一弘（2014）「経営理念提示型：渋沢栄一、松下幸之助、稲盛和夫」宮本又郎・加護野忠男・企業家研究フォーラム編『企業家学のすすめ』有斐閣、406-417 頁。
- 田中一弘（2017）「渋沢栄一の道徳経済合一説からみたフィロソフィとアメーバ経営：公益と私利の両立をめぐる」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化』中央経済社、185-209 頁。
- 田中一弘（2022）「稲盛哲学と〈誠実さ〉：『正直』の観点から」稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第1号、19-36 頁。
- 田中一弘（2023）「稲盛経営哲学の一端を学んで」『企業会計』第75巻第2号「特集 稲盛和夫を継ぐもの：会計に生き続けるフィロソフィ」中央経済社、15-19 頁。
- 田中一弘（2024）『先義後利の経営：渋沢栄一が求めた経済士道』有斐閣。

- 崔裕眞（2023）『『身をもって得る、体で了解する』稲盛経営哲学：本質直観、フッサー現象学、そして身体論の視座からの学際的考察』稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第2号、41-68頁。
- 張又心バーバラ（2013）「京セラドキュメントソリューションズ フィロソフィを中国へ」伊丹敬之編著『日本型ビジネスモデルの中国展開』有斐閣、199-235頁。
- 寺本佳苗（2008）「組織の発展過程における経営哲学の役割：京セラアメーバ経営を事例とした分析枠組みの構築」『ビジネス・マネジメント研究』第5巻、35-54頁。
- 寺本佳苗（2009）「経営哲学のダイナミクス：京セラアメーバ経営の経営哲学、組織過程、組織構造からの研究」麗澤大学博士論文。
- 難波和秀（2024）「京セラ創業者の稲盛和夫の経営理念と後継経営者の伊藤謙介：第三者承継における経営理念創出・融合プロセスへの示唆」『生産管理』Vol. 31, No. 1、93-98頁。
- 野中郁次郎（2022）「二項動態を体現した稀有な経営者」『Voice』2022年11月号、「特別企画いまこそ『稲盛経営哲学』に学べ」PHP研究所、104-111頁。
- 日置弘一郎・奥野明子・寺本佳苗・中尾悠利子・李超・粟野智子（2021）『利他の構造』ミネルヴァ書房。
- 平手賢治（2015）「自然法論と経営哲学：松下－稲盛経営哲学の自然法論的刷新に向けて」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第6号、121-148頁。
- 平手賢治（2018）「自然法論におけるリーダーの使命：稲盛和夫の『フィロソフィ』と小倉昌男の『経営学』」『経済社会学会年報』、94-105頁。
- 牧原千尋（2018）「研究・開発における稲盛経営哲学の実践」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第8号、1-28頁。
- 榊井靖之（2009）「病める経済大国日本への処方箋『経営哲学』の可能性：稲盛和夫の目指すところと経営の中で『哲学すること』」京都大学京セラ経営哲学寄附講座編『経営哲学を展開する：株主市場主義を超えて』文真堂、143-178頁。
- 三井泉・渡邊祐介（2007）「松下幸之助と稲盛和夫の経営哲学：その原点を探る」経営哲学学会編『経営哲学の実践』文真堂、23-59頁。
- 山内廣隆（2024）『稲盛フィロソフィとは何か：西田幾多郎と稲盛和夫の〈哲学〉』ナカニシヤ出版。
- 吉田健一（2015）「京セラにおけるフィロソフィ教育について：国分工場における研修を背景として」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第5号、1-20頁。
- 吉田健一（2016）「経営哲学の浸透に何が必要か：シンポジウム『JAL再生を題材として』からの考察」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第7号、1-34頁。
- 吉田健一（2018）「稲盛経営哲学を構成する主要な要素」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第8号、29-50頁。
- 依田祐一（2020）「日本航空株式会社の企業変革」『立命館経営学』第59巻1号、111-131頁。
- 劉慶紅（2020）『利他と責任：稲盛和夫経営倫理思想研究』千倉書房。
- 劉慶紅（2023）『戦略的利他主義：稲盛経営哲学に学ぶ統合戦略』千倉書房。
- 劉慶紅（2024）『統合戦略論：「倫理人」モデルで論じる Total Value Chain』千倉書房。

【英語文献】

- Kase, K., E. Choi, and I. Nonaka (2022) *Dr Kazuo Inamori's Management Praxis and Philosophy: A Response to the Profit-Maximisation Paradigm*, The Palgrave Macmillian.
- Obuse, K. (2011) "Buddhism in the Life and Philosophy of Kazuo Inamori: Formative Influences of a Contemporary Japanese Entrepreneur", *Buddhist Virtues in Socio-Economic Development*, Mahachulalongkornrajavidyalaya University, pp. 38–50.
- Yoda, Y. (2017) "Philosophy-based corporate transformation: The case study of Kyocera Mita Corporation", *Asia Pacific Business and Economics Research Perspectives*, 5(1), pp. 22–47.

【中国語文献】

- 劉慶紅 (2019) 「利他与責任：稲盛和夫経営倫理思想研究」清華大学博士学位論文。
- 劉慶紅 (2021) 『利他之心：稲盛和夫商業倫理思想研究』人民出版社。
- 鐘放 (2007) 『稲盛和夫の経営哲学』商務印刷館。
- 鐘放 (2008) 「文化視角下的稲盛経営哲学与企業実践」東北師範大学博士論文。

4. 思想史・足跡

- 井上友和 (2024) 「稲盛和夫と中村天風著『研心抄』との邂逅：稲盛ライブラリー収蔵資料の調査を通じて」稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第3号、45–56頁。
- 神田嘉延 (2009b) 「鹿児島大学工学部の創設期の教育状況：稲盛和夫の学生時代の背景」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第1号、257–268頁。
- 神田嘉延 (2010a) 「青年の自立と労働：稲盛和夫の働き方論を中心として」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第2号、17–50頁。
- 神田嘉延 (2010b) 「鹿児島市西田小の校区の文化と歴史：稲盛和夫の育った地域背景」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第2号、51–65頁。
- 神田嘉延 (2012a) 「稲盛和夫の経営哲学と仏教観（その1）」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第3号、11–71頁。
- 神田嘉延 (2012b) 「稲盛和夫の経営哲学と仏教観（その2）」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第4号、13–46頁。
- 神田嘉延 (2012c) 「稲盛和夫と児童福祉：京都の大和の家を中心として」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第4号、47–81頁。
- 神田嘉延 (2015) 「西郷隆盛の再評価と稲盛経営哲学」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第6号、1–51頁。
- 吉田健一 (2010a) 「石田梅岩と稲盛和夫の思想：石門心学思想の今日的意義と稲盛哲学との比較」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第2号、105–150頁。
- 吉田健一 (2010b) 「稲盛和夫の少年時代と鹿児島の精神教育：自彊学舎関係者インタビューから」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第2号、151–193頁。
- 吉田健一 (2012a) 「鹿児島時代の稲盛和夫：幼年時代から学生時代まで」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第3号、133–211頁。

- 吉田健一（2012b）「稲盛和夫の政治思想：その特徴と理想」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第3号、213-248頁。
- 吉田健一（2020）「薩摩（鹿児島）の文化と稲盛和夫」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第9号、1-15頁。
- 吉田健一（2021a）「日本の経営思想と稲盛和夫（1）石門心学と稲盛和夫」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第10号、1-23頁。
- 吉田健一（2021b）「日本の経営思想と稲盛和夫（2）渋沢栄一・松下幸之助との比較」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第10号、25-53頁。
- 吉田健一（2021c）「稲盛和夫のリーダー論」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第10号、55-84頁。
- 吉田健一（2022a）「稲盛和夫と潜在意識論」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第11号、1-24頁。
- 吉田健一（2022b）「稲盛和夫とニューソート思想」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第11号、25-47頁。
- 吉田健一（2023）「稲盛和夫と仏教思想」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第12号、1-31頁。
- 吉田健一（2024）「『盛和塾』機関誌における稲盛和夫氏の講演内容の分析」『鹿児島大学稲盛アカデミー研究紀要』第13号、1-27頁。

5. アーカイブズ・その他

- 稲盛和夫研究会編（2022）『稲盛和夫研究』第1号。
- 稲盛和夫研究会編（2023）『稲盛和夫研究』第2号。
- 稲盛和夫研究会編（2024）『稲盛和夫研究』第3号。
- 梅崎修・塚田俊彦（2023）「稲盛ライブラリーのオーラルヒストリーについて：保存資料の紹介」稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第2号、91-102頁。
- 木村昌人（2022）「アーカイバル研究から見た稲盛ライブラリーの魅力と将来の可能性：渋沢栄一記念財団での体験を通じて」稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第1号、55-72頁。
- 辻村優英（2022）「稲盛和夫研究に資するアーカイブのためのRDFグラフ構築の可能性に関するアクターネットワーク理論的視座からの考察」稲盛和夫研究会編『稲盛和夫研究』第1号、37-53頁。

（掲載基準・凡例）

- ・1983年から2024年までに刊行された「稲盛和夫」に関連する学術論文・書籍、ケーススタディ、その他研究史に影響を与える記事のうち、稲盛ライブラリーで収蔵または把握している文献を対象とする（ただし、収蔵している論文のうち、修士論文は含めない）。
- ・書籍・論文の全体または一節の主題に「稲盛」「京セラ」「アメーバ経営」等を取り上げているかどうかを掲載基準とする。
- ・文献の配列については、「著者－出版年」方式とし、「1. 経営史・企業家史・事例研究」「2.

-
- アメーバ経営」「3. 経営哲学・企業倫理」「4. 思想史・足跡」「5. アーカイブズ・その他」の研究分野ごとに、日本語文献は50音順、英語文献はアルファベット順、中国語文献はピンインのアルファベット順に従う。日本語文献、英語文献、中国語文献の順に配列する。
- ・同一著者が同一年に複数の論文・著書を刊行している場合は、(2024a) (2024b) のようにアルファベットで区別する。
 - ・副題がある場合は国立国会図書館の表記に従い、「主題：副題」に統一する。
 - ・出版社は初版刊行時とする。